



感染性胃腸炎に **注意!**

嘔吐、下痢を主症状とするノロウイルス・ロタウイルス等による感染性胃腸炎に注意しましょう。

感染性胃腸炎は、非常に感染力が強く、症状が治まった後も周囲に感染させる恐れがあります。

特に次のことに注意してください。



〈感染性胃腸炎の特徴〉

- 潜伏期間は1～3日程度です。
- 主として、経口感染で、病原体に汚染された水や食品、感染者の嘔吐物や糞便などの排泄物によって汚染された手・ドアノブ・食物などを介して感染します。
- 嘔吐と下痢が主症状ですが、嘔吐のみ・下痢のみの場合、37～38℃の発熱、吐き気、腹痛など、症状のあらわれ方や程度に個人差がみられます。
- 2～7日で治りますが、発熱や嘔吐、下痢で脱水症状をおこすこともあります。
- 体調の変化(下痢等)があれば、早めに医療機関を受診しましょう。
- 消毒方法等は裏面を参考にしてください。

〈嘔吐物・オムツの処理〉

- 使い捨てのマスク、エプロン、手袋を使用します。
- 処理するときは窓を開け換気します。
- 乾燥しないうちに処理しましょう。
- 嘔吐物は、新聞紙で覆い、消毒薬(0.1%次亜塩素酸)をかける。中央に向かってふき取りビニール袋にすてる。
- 汚染場所を新聞紙等で覆う・消毒薬をかける(10分放置)・中央に向かってふき取りビニール袋に捨てる。
- オムツはすぐにビニール袋に入れ、消毒薬(0.1%次亜塩素酸)に浸し、密封します。

〈感染性胃腸炎の感染予防〉

1. 手洗い・うがいを充分に行いましょう。

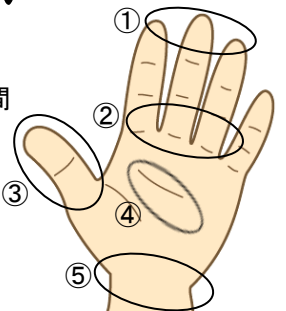
- ✓ 帰宅後、トイレの後、調理前や食事の前などは、石けんを使い、手のひら、手の甲、指の間、親指を流水で充分に手洗いしましょう。
- ✓ 手を拭くタオルは、個人専用のものか、ペーパータオルを利用しましょう。
- ✓ 帰宅後など、適時、うがいも行いましょう。

2. 入浴時には体を洗ってから浴槽に入りましょう。

- ✓ 下痢がある場合は、乳幼児との混浴、バスタオルの共用を避け、最後に入るか、シャワー浴にしましょう。
- ✓ 風呂の湯は、毎日取り替え、浴槽はよく洗い流しましょう。

洗い残しやすい箇所

- ① 指先・爪の間
- ② 指の間
- ③ 親指の周り
- ④ 手のしわ
- ⑤ 手首



〈消毒方法〉

ノロウイルス・ロタウイルス等には、アルコール、逆性石鹼(オスパン)等の消毒薬は効きにくい。

[消毒薬] ■ 消毒には次亜塩素酸系のものを用いて、汚染された場所、トイレ周り、洗面所、テーブル、風呂等共有部分を拭きます。

■ 消毒有効濃度(希釈濃度)

<通常時> トイレ周り、ドアノブ、床など → 0.02%

<患者発生時> 嘔吐物、排泄物の処理、汚染場所 → 0.1%



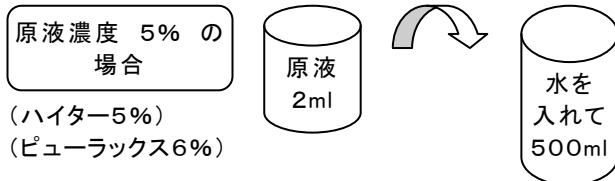
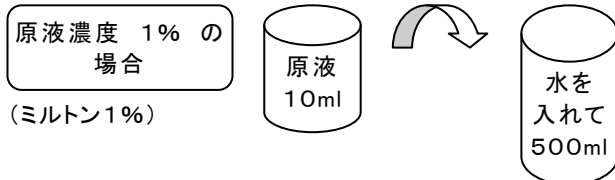
■ 患者のリネンや衣類は、0.1%消毒薬に30分浸け置き後、洗濯する。また、色物は色落ちするため、85℃の熱湯に漬け置き後、洗濯する。

■ 患者の汚れた下着等は水洗いし0.1%消毒薬に30分浸け置き後、洗濯する。

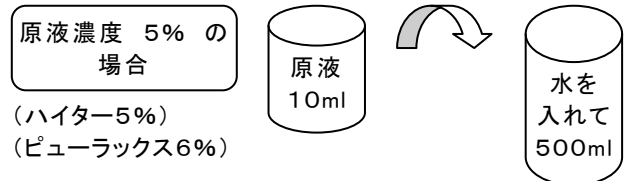
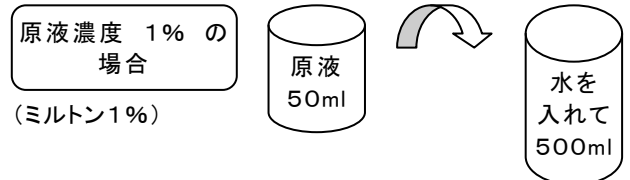
- [注意！]
- ① 原液濃度を確認してから希釈してください。
 - ② 希釈した消毒薬は、他の消毒薬と絶対に混ぜないでください。
 - ③ 消毒する際は手袋をします。
 - ④ 室内の換気を行います。
 - ⑤ 金属腐食性があるので、消毒後10分たったら水拭きします。
 - ⑥ 消毒後には石鹼による入念な手洗いと通常の手指消毒を行ってください。

次亜塩素酸ナトリウムの希釈液早見表 (500ml ペットボトルで作る場合)

0.02%(200ppm)の次亜塩素酸ナトリウム希釈液の作り方



0.1%(1000ppm)の次亜塩素酸ナトリウム希釈液の作り方



* 次亜塩素酸ナトリウム希釈液の安定性は比較的良好ですが、時間とともに効果が減弱しますので保管時は蓋をして早め(24時間以内)に使いきりましょう。

* ペットボトルを使用する場合は、飲料と間違わないように明記し保管に注意すること。(特に、高齢者・乳幼児の施設においては、保管に充分注意し従事者以外のものが扱えないようにしておきましょう。)

* ペットボトルのキャップ約半分が、約2mlです。

* ペットボトルのキャップ軽く2杯が、約10mlです。

京都府中丹西保健所(中丹広域振興局健康福祉部)

〒620-0055 京都府福知山市篠尾新町1丁目91番地

TEL. 0773-22-6381 FAX. 0773-22-0429